

科目コード	R24101	科目名	建学の精神				
履修区分	必修	開講期	1年前期	授業回数	15回	単位数	2単位
担当者	川畑 なみ・古澤 宰治 他						
授業の概要	<p>[古澤 宰治・川畑 なみ(8回)] 「心技一体」とは、知識及び技術・技能は勿論、精神的にも豊かで健全なる身体を備え、心・技・体が一体となって成長することにより、三位渾然とした幅広い知識と能力、博愛精神・人間愛に満ちた慈愛を持ち、協力し創造する喜びと感動を求めて努力を惜しまない人材となりうることを学ぶ。</p> <p>[嶋津 まみ(4回) 茶道 ] 誰でも持っている優しい心づかい、感動する心、そうした心をより豊かに育み、人間としての感性を大切に自分を高めていくことを目的として、広島で四百年近くその道統が守り伝えられている上田宗箇流茶道を通じて、茶の湯の心の在り方、その作法を学ぶ。</p> <p>[植田 和稔(3回) 華道 ] 伝統文化として代々受け継がれてきた華道を通して、自然の中で育まれている植物を観察し出生を知り、歴代宗匠の教の中から和の精神を学ぶ。</p>						
DPとの関連	慈愛ある豊かな人間性と人間を広い領域から捉える教養を身につけている						
	理学療法・作業療法を実践するための専門的知識・技術を身につけている						
	生命の尊厳や人間尊重を基本とする高い倫理観を持ち、自律して行動できる思考力や判断力を身につけている						
	理学療法士・作業療法士として課題を解決しようとする情熱と創意を持っている						
	地域社会・国際社会の一員として、専門職種と協働できる専門知識、コミュニケーション能力を身につけている						
	2025年度以降の学則適用者用のDPとの関連を記載しています。2024年度以前の学則適用者は項目順や表現が異なりますので注意してください。 DP：ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）＝卒業までに身に付けるべき資質・能力						
到達目標	より良い技術とは技術力のみではなく、それを用いる人とその健康な体が調和されて社会にとって貢献しうる技術となることを体系的に理解し、説明することができる。						
履修上の注意事項	各教員によって授業形態が異なり、「茶道」および「華道」については少人数での実施が望ましいため、クラス編成をした上での授業となります。詳細は別途指示します。						
授業計画	回数	講義内容【担当教員】				事前・事後学修	
	1	建学の精神 【古澤】				レポート課題または講義の復習（4時間）	
	2	建学の精神 【古澤】				レポート課題または講義の復習（4時間）	
	3	建学の精神 【古澤】				レポート課題または講義の復習（4時間）	
	4	問題点のとらえ方：・現状分析 「良いリーダーになるための条件とは」（特定要因図）【川畑】				レポート課題または講義の復習（4時間）	
	5	問題点のとらえ方：問題点の指摘 「良いPTまたはOTになるための条件とは」（特定要因図）【川畑】				レポート課題または講義の復習（4時間）	
	6	問題点のとらえ方：改善方法 「良いPTまたはOTになるための条件とは」（KJ法）【川畑】				レポート課題または講義の復習（4時間）	
	7	問題を改善するのは人である：「目標を達成するために必要なこと」（グループワーク）【川畑】				レポート課題または講義の復習（4時間）	
	8	人間は考え方により行動がある：第6回のグループワークの発表【川畑】				レポート課題または講義の復習（4時間）	
	9	いけば花の成立【植田】				レポート課題または講義の復習（4時間）	
	10	華道が伝統文化（生活文化）として受継いできたもの【植田】				レポート課題または講義の復習（4時間）	
	11	現代の生活環境といけば花【植田】				レポート課題または講義の復習（4時間）	
	12	はじめに 茶道について 茶の湯の心 人への思いやり もてなしの心と工夫・知恵 お茶の効用【嶋津】				レポート課題または講義の復習（4時間）	
	13	茶道とのふれあい 茶室での立ち居振る舞い 基本姿勢 あいさつ 客の心構え・作法 もてなす側の心配り【嶋津】				レポート課題または講義の復習（4時間）	
	14	席入り 客作法 お茶を点てる 点て出し作法 お菓子・お茶をいただく【嶋津】				レポート課題または講義の復習（4時間）	
	15	まとめ お茶会を開く お茶会に参加する【嶋津】				レポート課題または講義の復習（4時間）	
成績評価方法	レポート100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。						
教科書	書名・著者（出版社）					ISBNコード	
	使用しない						
参考書							
教員からのメッセージ							
教員との連絡方法							
実務経験のある教員							